

令和2年度タウンミーティング（令和2年度）開催の方向性について（案）

1 目的（2か年共通）

第二次総合計画が、市民にとって共有できる「ビジョン」や「シナリオ」となることを目指して、市民が主体となって参加し、将来のあきる野市の理想の姿及び実現に向けたアイデア出しを行う機会を設定する。

2 昨年度の振り返り

上記の目的に照らし、昨年度は総合計画の基本構想における将来都市像（ビジョン）を中心に、市内3か所（①西部（五日市・戸倉・小宮）、②中部（西秋留・増戸）、③東部（東秋留・多西））において3回ずつワークショップ形式でアイデア出しを実施した。

■昨年度の開催概要

回数	テーマ
第1回	<p>「あきる野市の個性を浮き彫りにしましょう」</p> <p>まちの個性（宝（資源・魅力）、困りごと）について、暮らしの実感等を交えて考え、これからのあきる野市においてどのように個性を発揮していけばよいかを想像する。</p>
第2回	<p>「あきる野市の望ましい将来像を描きましょう」</p> <p>まちの個性を踏まえ、「10年後、こうなるといいなあ」という将来像を描くとともに、実現に向けた具体的な活動の方向性を考える。</p>
第3回	<p>「市民が主体となることができること、やるべきことを考えましょう」</p> <p>将来像の実現に向けて、特に市民が主体として活動すると効果が高いと考えられる項目（テーマ）を抽出し、具体的な活動内容を考える。</p>

3 今年度の開催目的と留意点

（1）今年度の開催目的

今年度は、昨年度のタウンミーティング等における第1回・第2回の検討内容が第二次総合計画において、どのように反映されているのかを確認するとともに、庁内にて検討を進めている第二次総合計画基本計画骨子案の説明及び基本計画に盛り込むことが望ましいと考えられる事業のアイデアについて、第3回の検討内容を踏まえた意見聴取を行う。

（2）留意点

開催に当たって、以下の2点には特に留意する必要があると考える。

- ①今年度の開催目的に照らし、昨年度の検討内容を踏まえたアイデア出しを行うことが出来る参加者の構成に留意する必要がある。① 今年度の開催目的に照らし、今年度のタウンミーティングは、昨年度の検討内容を踏まえたアイデア出しを行うことが出来る参加者の構成に留意する必要がある。このため、今年度のタウンミーティングの参加者は、昨年度のタウンミーティングに参加していることを条件とす

る。

- ② 新型コロナウイルス感染症の感染拡大防止に配慮した開催方法の検討に留意する必要がある。

4 開催方法（案）

今年度の開催目的と留意点を踏まえ、開催方法について、次の2案を検討した。2案のうち、参加者の意向を踏まえてを確認のうえ1案に絞って実施する（詳細は後述）。

（案1）説明会型＜11月頃の開催を想定＞

各地区1回（2時間/回）開催し、令和元年度の報告（ワークショップタウンミーティング振り返り、基本構想案の説明）、基本計画骨子案の説明及び意見聴取を行う。意見聴取はワークショップ形式（昨年同様、4～5人/班に分かれて意見出し）。

開催に当たっては、「あきる野市の公共施設における新型コロナウイルス感染症拡大防止のガイドライン」等を踏まえ、3密（密閉、密集、密接）を極力避ける会場設営、消毒又は除菌、換気等の衛生管理等を行う。

（案2）意見書提出型＜11月頃の実施を想定＞

基本計画骨子案（印刷物）を郵送し、意見書（事務局からひな型を提供）を提出いただく。その際、令和元年度の報告（ワークショップタウンミーティング振り返り、基本構想案への意見反映状況等）を併せて行う。

5 開催方法の決定手法について

開催方法の決定手法について、前頁の留意点を踏まえ、昨年度のタウンミーティングタウンミーティング参加者を対象とした事前意向調査を行って、意向を把握した上その結果を踏まえて決定することを想定。

※参考（ファシリテーター（昨年度から継続）について）

○奥村玄（NPO法人横浜プランナーズネットワーク 前理事長）

農村計画、町並み景観計画、地域福祉計画等の計画づくり、建築計画（集会所や古民家の再生）、都市デザイン（プロムナードや地域緑化）、ランドスケープデザイン（公園設計）の設計など、幅広くまちづくりの支援を行っており、市民参加型のワークショップのファシリテーション経験が豊富である。